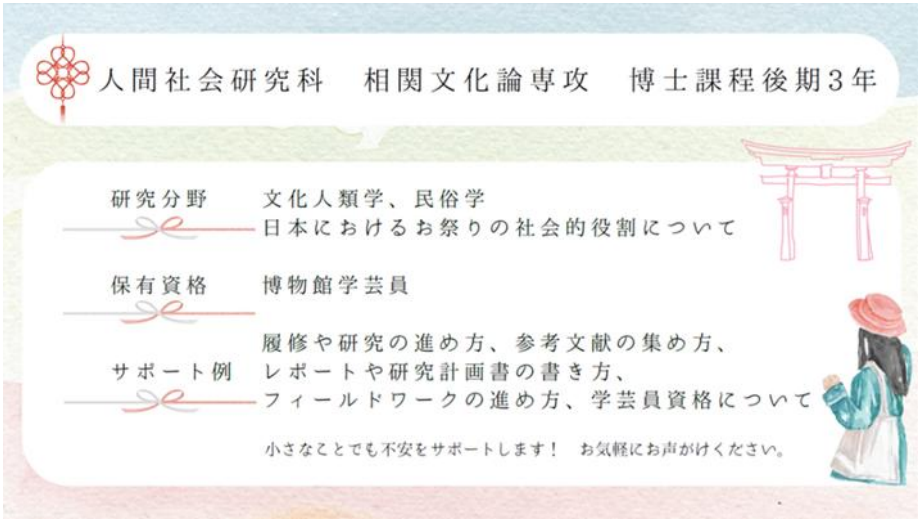
ラーニング・サポーター　♪ 7 月のつぶやき
-JWU ラーニング・コモンズさくらより-

図書館 2 階 JWU ラーニング・コモンズさくら（以下「さくら」と略）では、学科・専攻推薦を受けたラーニング・サポーター（本学大学院生）が学修相談を受け付けます。学修相談以外にもミニ講座の開催や「さくら」の活動支援をしながら、感じたこと、思ったことを「つぶやき」、本学学生の皆さんに学修相談に訪れてもらいたいと思っています。ラーニング・サポーターは「さくら」で皆さんをお待ちしています！

＜7 月のつぶやき♪INDEX＞

p.1　カササギ詐欺　@T.K.（相関文化論専攻博士課程後期 3 年）　7 月 10 日 tweet！
p.2　7 月のおすすめ展覧会と推し本　@K.W.（生活環境学専攻（被服学）博士課程後期 3 年）　7 月 24 日 tweet！
p.2　夏休みの一大イベント　@T.C.（教育学専攻博士課程前期 2 年）　7 月 27 日 tweet！

つぶやき 1 ♪　カササギ詐欺



先日の七夕は曇り。織姫と彦星は、無事会うことができたのでしょうか。6 世紀の中国では、牽牛と織女の伝説と針仕事の上達を願う行事が結び付き、「乞巧奠(きっこうでん)」というお祭りになりました。それが奈良時代に日本へと伝わり、皆様が知っている「七夕」へと展開していきました。

牽牛と織女が天の川を渡る時には、カササギが橋となってくれます。牽牛と織女だけではなく、カササギもまた、七夕には欠かせない要素でした。ただ、七夕と一緒に知られるようになったカササギは、実は日本に生息しない鳥でした。江戸時代頃になると九州の一部で観察されるようになるそうなのですが、それまでの日本では想像上の生き物でした。日本ではどのような姿だと想像されていたのか、窺い知ることのできるお祭りがあります。

京都の祇園祭には、南北朝時代頃から「大舎人の鵲(かささぎ)鉾」という鉾が出ていました。美しい傘鉾と 2 人で舞う鷺舞、すなわち「かさ」と「さぎ」を合わせて「かささぎ」というわけです。傘には鷺の人形が、鷺の頭のてっぺんには傘が付けられていて、3 重の意味で「かささぎ」という、洒落が効いた鉾でした。

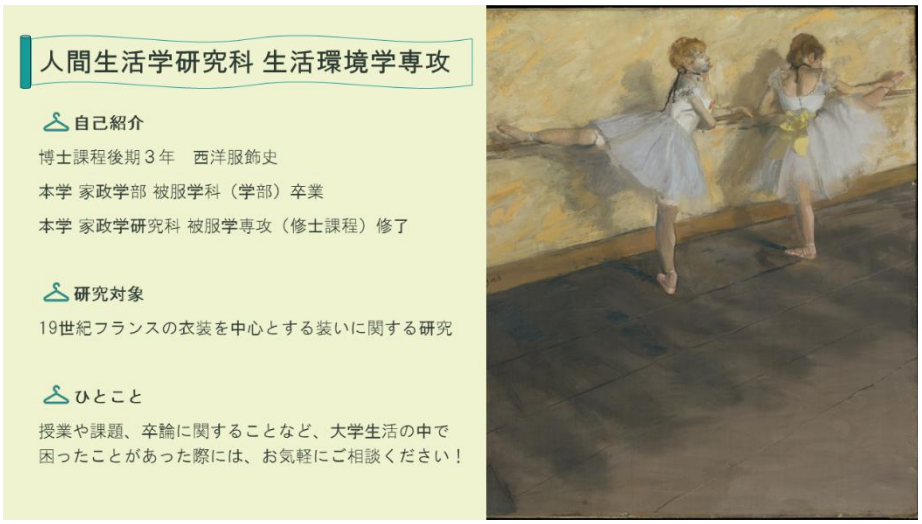
祇園祭には、各町から様々な伝説に基づいた鉾や傘鉾が出されます。大舎人では、なぜカササギが選ばれたのでしょうか。「大舎人」というのは大舎人座を指し、現在の西陣の辺りだったといわれています。西陣は現在も西陣織で有名ですが、その前身となる織物組合の人々が集まっていました。つまり、牽牛と織女を繋ぐカササギは、大舎人の人々にとって最も適した題材だったのです。

しかし、応仁の乱によって祇園祭は中断し、鵲鉾も再興されることなく姿を消してしまいました。それでも、当時見ていた人にとって、鷺舞はとても印象的だったのだと思います。山口県から島根県の津和野という場所へ伝わった鷺舞は、長い時を経て 1956 年に祇園祭へ逆輸入されることとなり、復活を遂げます。

物学的に、カササギはスズメ目カラス科、サギはペリカン目サギ科に分類されます。名前が似ているだけでかなり異なる生き物だったので、当時の日本人がカササギを見ていたとしたら、まさにサギだと思ったかもしれません。

七夕を迎え、様々な地域の架け橋となって文化を繋いでくれたカササギに願いを届けてもらえるよう、日々過ごしていけたらいいなと感じました。それでは、また来月。

つぶやき２♪　７月のおすすめ展覧会と推し本



いよいよ夏休みになりますね！今回は、夏休みに涼しく楽しめるおすすめの展覧会と、それにあわせて読みたい本をご紹介します。

まずは、「大ゴッホ展」です。第一弾である「大ゴッホ展　夜のカフェテラス」の会期終了は迫っていますが、第二弾「アルルの跳ね橋展」は2027 年に開催を控えています。この展覧会は、世界屈指のゴッホコレクションを有するクレラー＝ミュラー美術館による特別協力のもと開催されているのですが、同美術館はアムステルダムから距離のある場所に位置しています。ゴッホ美術館には行けても、クレラー＝ミュラーまではなかなか行きづらい…というゴッホファンも多い場所です。そのため、ゴッホの貴重な作品の数々を日本で鑑賞できるこの機会に、みなさんにもぜひ足を運んでいただきたいと思います。

そして、展覧会のお供にぜひ読んでいただきたいのが、原田マハさんの『たゆたえども沈まず』(2017)です。同作では、大ゴッホ展の目玉である〈夜のカフェテラス〉(1888)と〈アルルの跳ね橋〉(1888)が制作された南仏アルルでの日々が描かれているほか、ゴッホが日本美術から受けた影響や、彼の日本に対する憧れが鮮やかに描きだされています。この本を読んでから展覧会に足を運ぶと、絵画の奥にある人間ゴッホの感情や視点に触れられるような、そんな気持ちになるかもしれません。また、日本に強い憧れを抱きながら、生涯日本を訪れることのなかったゴッホの作品が、日本で展示され、多くの日本人に愛されていることの意味も感じることができると思います。

梅雨が明け、出かけるのも辛い気温になってまいりました。涼しい図書館で本を読み、美術館に足を運んでみるのはいかがでしょうか。みなさん、体調にはくれぐれも気を付けて、良い夏休みをお過ごしください！

つぶやき３♪

夏休みの一大イベント

いよいよ前期の授業がすべて終わり、夏休みが始まりますね。長い休みを前に、旅行やアルバイト、部活動、資格取得、帰省など、それぞれ楽しみにしている予定がある人も多いのではないでしょうか。夏休みは、普段の授業がある時期にはなかなかできないことに挑戦できる貴重な期間です。新しい場所へ出かけてみたり、興味のある本を読んでみたり、気になっていたことを調べてみたりと、少しだけ普段とは違う時間の使い方をしてみると、新しい発見があるかもしれません。

私にとって夏休みの一大イベントは、ゼミの夏合宿です。学部時代から数えると、今年で4回目の参加になりますが、その日が近づくと今でも少し緊張します。私が所属しているゼミの夏合宿のメインは、卒業論文や修士論文についてゼミ生同士で議論することです。3年生から大学院生までが学年の垣根を越えてグループをつくり、それぞれの研究について意見を交わします。4年生や修士2年生は、自分の研究の概要や進捗、今後の計画を発表し、それに対して先生やゼミ生からさまざまな意見や質問をもらいます。自分では気づかなかった視点に出会えたり、研究の課題が明確になったりするため、ちょっと不安もありますが、それ以上に学びの多い時間です。

もちろん、勉強だけではありません。みんなでバーベキューをしたり、夜空いっぱいの星を眺めたり、ハイキングを楽しんだりと、自然の中で過ごす時間も夏合宿の魅力の一つです。勉強も交流も全力で楽しむ2泊3日は、毎年夏休み

の思い出として心に残っています。

　暑さが厳しい日が続きますが、無理をせず、しっかり休息や水分補給をしながら、みなさんも、この夏休みだからこそできることにぜひ挑戦してみてください。充実した素敵な夏休みになりますように。

ラーニング・サポーターのつぶやき（2026 年 7 月）
ホームページ　https://lib.jwu.ac.jp/lib/lc_ls.html
編集：JWU ラーニング・コモンズさくら